



C303CA by casio 最後にやってきた タフネス・ビューティー

若者から絶大な支持を得た腕時計「G-SHOCK」を思わせる、カシオ計算機初の携帯電話「C303CA」は、耐水、耐衝撃性を重視した、非常に新しいコンセプトの製品だ。

2年の歳月がもたらす ロジカルなデザイン

「もともとの企画は、他社とは違う特徴のある製品を出そうということでした。ですからG-SHOCKはまったく関係なかったんです」。C303CAのデザインを手がけた太田晴紀氏は、G-SHOCKとイメージがダブると言われることを、あまりうれしくないという。

そもそも、C303CAは、クラブス

トリート系の若者の「尖った」層をターゲットに開発が進められた。超今風の若者の前に、多種多様なプロトタイプを並べ、彼らが最も強く反応したものが「プロテクションタブ」をコンセプトとした現行製品の原形だったというわけだ。

プロトタイプの完成から2年。最盛期には8人のデザイナーを投入したという、異例の時間と人員をかけたデザインワークの結果、C303CAはプロトタイプとほぼ同じイメージで製品に仕上がっている。大きな変更点は液晶周りの「サークルディスプレイプロテクション」と呼ばれるベゼル部分の材質。もともとはアルミ製だったが、プロテク

ターとしての役目を考えウレタンに変えた。このため形状がプロトタイプに比べ、少し貧弱になっている。最初に製品を見た時、この部分の弱さが気になったので、パーフェクトとも言えるプロトタイプを見せられ余計に残念に思えた。

ウレタン、マグネシウム、ABS、球面レンズ……C303CAでは、それぞれの素材と形状に、必ず機能と理由がある。これらの仕上りの良さと微妙な質感の違いが見せる調和は特筆に値する。「一歩間違えればオモチャのように見える造型」というフォルムは国内で販売されている携帯電話の中でダントツの品質感に仕上がっている。

本体内部への浸水を防ぐため、外部接続端子カバーはステンレスで補強。キーは本体への面圧が一定にかかるよう、丸型形状を採用した。



丸型埋め込み式のスクリーンロックを装備。これが衝撃によるバッテリーバックの脱落を防止する。機能美としてのタフさの追求がここにも見られる。

PROFILE ●酒井俊彦(さかいとしひこ)

サカイデザインアソシエーツ代表。87年東京造形大学卒業。通産省選定グッドデザイン賞、アビターレイテンが展覧(伊)、1995デザインの現在展(加)ほか。